

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	視環境評価小委員会	主 査 名：奥田 紫乃 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：原 直也
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・新たな時代に適合した明視性や、明るさ・グレア、色・質感に関する視環境の評価法を整理・集約し、視環境評価に関する課題を抽出する。</p> <p>・個別の課題についてWGを設置し、組織的に検討・整備する。</p> <p>初年度：各WGの活動内容を集約し、課題を抽出する。</p> <p>2年度：各WGの活動内容について、シンポジウム/公開研究会/拡大委員会を開催して意見交換する。</p> <p>3年度：各WGの活動内容を集約し、課題を抽出する。</p> <p>4年度：各WGの活動内容について、シンポジウム/公開研究会/拡大委員会を開催して意見交換する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：奥田紫乃 (同志社女子大学) 幹事：岡本洋輔 (大同大学) 委員：明石行生 (福井大学), 秋月有紀 (富山大学), 加藤未佳 (日本大学), 加藤洋子 (交通安全環境研究所), 神農悠聖 (大手前大学), 原直也 (関西大学), 望月悦子 (千葉工業大学), 山口秀樹 (国土技術政策総合研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>明視評価WG：明視に関連が深い研究について、視対象や観察者の特性、評価方法・指標などの観点からそれらの関係性を見出し、布置することで、有機的な分類を行うことを目指した議論・活動を行う。</p> <p>明るさ評価WG：日光も含めた 180° 視野及び 360° 視野の平均輝度をベースとした明るさ評価と対応する物理量の検討結果を踏まえ、設計目標値としての空間の明るさ評価手法を検討する。</p> <p>グレア評価WG：光源の種類や用途によらず、また、減能グレアと不快グレアを統一的に扱えるグレア評価方法の開発に向けた課題を整理するとともに、統一的なグレア評価方法の確立に向けた研究の方向性について議論する。</p> <p>色と質感評価WG：建築内外装面の色や質感の見え方を評価する方法を可能にするために、その影響因子を整理し、それら因子により見え方を予測するための評価方法と、その評価に必要な因子の特性を表す指標を検討する。</p>	
2022 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	1. シンポジウム「多様な光・視環境設計に向けた空間の明るさ評価技術の動向」 (資料名) 同上 (2月20日開催) 参加者数 67名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 各WGの活動に基づき、小委員会の活動方針を議論した。 2. シンポジウムを開催し、明るさ評価WGの成果を報告した。 3. 拡大小委員会を開催し、各WGの活動内容を光環境運営委員会メンバーと共有するとともに、今後の検討課題について議論した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	無し

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>視環境設計の要件、視環境評価の課題を整理し、取り組むべき課題を検討するためのWGを設置し、その活動内容を体系的にまとめた。2年間を通して各WGはほぼ計画通りに活動を進めることができた。2022年度末には光環境シンポジウムを開催し、明るさ評価WGでの活動として、執務室の実際の設計において課題となる、窓からの採光が得られている場合、及びタスク・アンビエント照明(TAL)を計画する場合といった、室内外に明るさの異なる領域が生じる場合の空間の明るさ評価技術について報告した。さらに、空間の明るさの観点から、多様な光・視環境設計を適切に評価するための技術や規準の枠組み等に関するディスカッションを行った。</p> <p>また、2022年度末には拡大小委員会も開催し、明視評価WG、グレア評価WG、色と質感評価WGの活動報告を行うことで、光環境運営委員会内の委員と、傘下WG活動の現状や課題について情報共有を行った。</p> <p>小委員会・WGの協働により、互いの活動の位置付けを明確にし、今後の検討課題を明確にできたことなどを含め、有意義な活動であったと考える。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。